

亀山高校の大クスノキ

亀山高校正面玄関を右手に見ながら、運動場方向へと入っていくと、南側約5m高の校舎敷地上、第1棟校舎の北側にひととき大きな木が目につきます。

樹高18m、幹回り3mの大クスノキです。

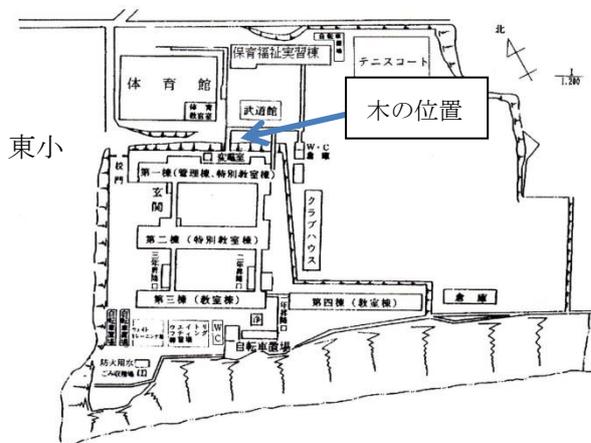
クスノキは大木になりやすく全国的には幹回り10mを超え、樹齢も数百年というものも多くあります。本校のクスノキは幹回り3mを超え、「巨木」の仲間入りをしたところのようです。

幹回り3mのクスノキの場合、平均的な樹齢としては100年前後とされる一方、生長が早い木でもあり、土壌条件等次第でより短い期間でその幹回りとなることもあるようです。

本校の様々な記録を整理し昭和57年に作成された「亀山高等学校60年史」や80周年につくられた「80年の歩み」には、1922年の開校時に植樹され、昭和27年の隣接する附属小中学校の大火から講堂を守った「神樹」と伝わる正門のすぐ西側のクスノキの記述と写真がありますが、東幼稚園改築時の平成22年前後に伐採され、残念ながら現存しません。

「60年史」や「80年の歩み」に記述のない1棟北のクスノキですが、幹回りからの平均的な樹齢であれば、開校時からのもとなり、そうでない場合であっても、開校後の比較的歴史の浅いうちに植樹されたものと考えられ、いずれにせよ本校を長きにわたり見守ってきた樹木であり、今後はより一層大切にしていけるべき巨木であることに変わりはありません。

過去の卒業記念アルバムを見ると、昭和43年には高木としてはっきりとわかるのですが、さらに20年遡ったアルバムでは、残念ながら樹種を特定できるものではありません。



たいへん昔の話で誠に恐縮なことです。このクスノキの植栽に関して何かご存じの方、またお手持ちの古いスナップ写真にこの木が写っているような場合は亀山高校までご一報いただきますようお願いいたします。

2015年2月 桜井